



西山じゅんじの  
愛犬ハナです。

tel/04-2943-3223

連絡先です!

fax/04-2990-2172



e-mail junji@tbk.t-com.ne.jp

# 西山じゅんじニュース

ホームページ <http://www2.tbb.t-com.ne.jp/junji/>

●注目された採択結果  
今年度は教科書採択の年。扶桑社版の「新しい歴史教科書」の採択を求める運動が活発化するなか、結果に関心が集まっています。同社版は県内すべてのブロックで採択されませんでした。また県教育委員会が直接選ぶ、県立伊奈学園中学校および盲・ろう・養護学校においても同社版は採択され



現場の先生の  
意見は重要。

パパさんは  
文教委員会の  
所属です。

教科書採択について

## 教科書選びには 現場教員の意見を参考に

●教科書『で』教える  
私は「制度上、最終決定権は県教委にあるが、現場教員の意見を十分参考にすべき」と述べ、「中学校の社会科で『歴史認識』を教えるべきか」と質問。義務教育指導課長は、「教員は特定の歴史認識ではなく、一つの史実にもいろいろある視点があることを教えるべき」と

ませんでした。  
県教育委員は現在6名ですが、高橋史朗委員が以前「新しい歴史教科書」の監修者であったため、同委員を除く5人で無記名投票が行われ、大阪書籍版が3票、扶桑社版が2票で、大阪書籍版に決定しました。  
こうした結果が9月県議会の文教委員会で報告され、現場の教員の意見をどう見るかについて議論が分かれました。  
伊奈学園からは、大阪書籍版と東京書籍版がよいとの参考意見が提出されていましたが、「2社に絞るのはおかしい」「現場の教員に引張られるのは問題。教育委員会が独自の判断で決めるべき」といった趣旨の発言が相次ぎました。



信頼関係が  
重要でしょ?!

そうです!

ぎゅー  
くるし……

納得のいく答弁をしました。  
私は、「教科書『を』教える」のではなく、「教科書『で』教える」べきと考えます。その意味で、現場教員の意見は重視されるべきです。仮に教育委員会が現場と違う判断をするならば、それにはよほど合理的な理由がなくてはなりません。  
今後さまざまな教育問題の解決に向け、最も重要なのは現場の先生方に対するエールではないでしょうか。子どもと教師の信頼関係なしに教育は成り立ちませんし、教師と保護者、教師と地域社会の信頼関係なしに、先生方は力を発揮できません。県議として、私は現場の先生方の努力をよく知り、応援する流れを埼玉県につくっていきたいと考えています。